

氏名	長尾 堯 司
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 791 号
学位授与の日付	昭和 51 年 9 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	精神の興奮及び荒廃と体内コルチコイド代謝との相関について
論文審査委員	教授 大月三郎 教授 森 昭胤 教授 大藤 眞

学位論文内容の要旨

コルチコイド代謝経路の中で、プロゲステロンより分れてコルチゾールとコルチコステロンになる経路と精神症状の関連をみるため、及び前頭葉皮質に委縮がある場合に体液中のコルチコイド・レベル並びに対 ACTH 反応に変化がみられるかどうかを知るために、分裂病の興奮群 27 例、分裂病の荒廃群 17 例、進行マヒ群 16 例の血中並びに脳脊髄液中のコルチゾール及びコルチコステロン値を J. van der Vies の蛍光測定法の変法を使用し測定し、さらに水性 ACTH (25 単位) 筋注 2 時間後の変動をみた。そして次の結果を得た。

1. 血中コルチコステロンは、分裂病興奮群に比べ荒廃群及び進行マヒ群で高く、コルチゾール／コルチコステロン比は興奮群で大きく、荒廃群、進行マヒ群で小さい。
2. ACTH 負荷で、血中コルチゾールが興奮群、進行マヒ群では高い反応を示したが、荒廃群では低い反応を示した。
3. ACTH 負荷により血中のコルチコステロンは、荒廃群のみにおいて減少した。これはプロゲステロン以下の代謝経路の変化のためではないかと思われる。
4. 血中コルチゾール／コルチコステロン比の ACTH 負荷による変動のしかたは、分裂病興奮群と荒廃群では逆の傾向を示した。
5. 血中及び脳脊髄液中のコルチコイドは、進行マヒ群で大であり、これは前頭皮質萎縮による変化及び血液・脳関門の損傷と関係あると思われる。
6. 分裂病荒廃群では対 ACTH 反応の低下と、血中コルチコステロンの増量を見るのが、特徴である。
7. 前頭皮質に萎縮があっても急性ストレスには充分反応出来るようだ。

論文審査の結果の要旨

本研究は精神分裂病の精神状態像と副腎皮質機能との関連を調べ、あわせて進行麻痺における変動との比較を行ったものである。従来十分な知見に乏しかった精神症状とコルチコイド代謝との関係について重要な知見を加えたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。